

目標：次代のいわきを担う「生きる力」を身に付けた子供の育成

未来をつくる いわきの学校教育ABCプラン
視点B Base（ベース） 教育の「土台」の部分を充実し、学力の向上を図ります

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の推進	重 点	(5) GIGAスクール構想によるICTの活用と、これまでの教育実践とのベストミックス化
(2) 言語環境の整備と言語活動の充実		(6) 情報活用能力の育成を目指した学習の推進
(3) 個別最適な学びや協働的な学びなどを支える、柔軟な指導体制の充実		(7) 一人一人の教育的ニーズに応じた、組織的な特別支援教育の推進
(4) 学校司書を活用した学校図書館機能の向上、読書活動や学習支援の充実		(8) 保幼小、小中の連携強化による義務教育の質の向上

学力向上推進事業

未来を拓く「いわきの学び」の推進
認知能力とともに、非認知能力を重視し、確かな学力の育成を目指す（いわき型全人的教育）

エビデンスに基づく学力向上策の推進 ～ 学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）の作成・活用 ～	「いわきの学びづくり訪問」の実施	児童生徒用「いわきのまなび」の教室掲示
○全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査、いわき市児童生徒理解アンケート（I-SUS）の結果を複合的・多角的に分析 ○「ダッシュボード」のデータから学校・学級の強みや課題を把握し、学校運営や授業づくり、学級づくり等につなげる取組（データ活用サイクル）の推進・研修等による「ダッシュボード」の活用促進	○授業づくり支援訪問 ・指導主事等が授業づくりの段階から参画し、授業改善に向けた指導・支援（授業づくり、授業実践、振り返りの3セット） ○実践事例発掘訪問 ・市内小中学校の優れた実践の調査・取材と他の学校に周知することによる横展開	○「ABCシート」を児童生徒用に置き換え、学習者の視点で授業の流れを示したポスター掲示 ・折りに触れた授業者からの確認 ・授業者と児童生徒が学習の流れを共有 ・自立した学習者の育成
学力向上アドバイザー訪問の実施	教員の授業力向上に向けた研修の実施	その他
○学力向上アドバイザー（4名）による市内全小中学校への訪問 ・管理職等との面談、校内研修における指導助言 ・「学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）」による学校・学級の強みや課題を基にした学校運営、学級づくり、授業づくり等に関する指導助言	○いわき市総合教育センターにおける研修 ・基本研修：初任研、経験者研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等 ・専門研修：授業改善・実践・深化講座等 ・調査研究委員会 - 授業の在り方の実践的な研究 ○他機関との連携による研修 ・学校のニーズに応じた研修（講師招聘型）	○学校訪問（要請訪問） ・各学校からの要請に応じ、指導主事等による授業に関する指導助言 ○広報 ・学力向上の取組のHP掲載 ・学力向上アドバイザー通信の発行

ICT教育の推進

生徒指導の充実

特別支援教育の充実

キャリア教育の推進

など

学力向上チーム（学校教育課・総合教育センター）

- ・事業推進班：庁外機関（先進自治体、高等教育機関）との連絡調整、委託機関外部窓口、広報、事務全般（予算管理）等
- ・学校支援班：学校訪問の計画・運営、各種調査の分析、学力向上アドバイザーによる管理職面談、研修支援等

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

「ABCシート」を基にした授業実践

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を構想する上で、市内小中学校共通で取り組む項目を重点として示し、授業を充実させる。

いわきの学校教育ABC

☒ **ABCシート**
～ Basics of Active learning Check シート ～

☐ 単元や本時において、子供たちに身に付けさせたい力を明確にしましたか？

導入

☐ 授業のめあて（課題）をもつ

☐ 子供の興味・関心を高め、主体的な学びとなるための「問い」を引き出せましたか。

☐ 学習事項を生かして
☐ 既習の仕方を見直しして
☐ 児童・生徒と対話を通して など

展開

☐ 自分の考えをもつ ☐ 自分の考えを広げ深める

☐ 子供が考えたり、表現したりする時間を確保しましたか。

☐ よい聞き手を育てる働きかけをしましたか。

☐ 子供の考えを認め、積極的に称賛し価値付けをしましたか。

☐ 友達や先生の話を最後まで聞かせる
☐ 友達や先生の考えと自分の考えを比べさせる
☐ 互いの考えのよさを理解させる など

終末

☐ 授業のまとめをする ☐ 自分の学びを振り返る

☐ 「めあて（課題）」に対する「まとめ」をさせましたか。

☐ 振り返りの時間を設定しましたか。

☐ 必要に応じて学習問題に取り組みはる
☐ 次の学びへと意欲を高める
☐ 自己評価、相互評価
☐ 次時の予告 など

☐ 単元や本時を通して、子供たちに身に付けさせたい力を育むことができましたか？

「ABCシート」を用いる場合は、効果的な場面においてツールの一つとして活用しよう。

単元や本時を振り返りましょう。

- 日々の授業改善や校内研修での活用（授業参観の視点）

児童生徒用「いわきのまなび」の教室掲示

「ABCシート」を学習者の視点に置き換えて学習の流れを示し、授業者と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の姿を共有することで、自立した学習者を育て、学習を充実させる。

いわきのまなび

どうして？ ～したい！ ～かな？

めあてをもつ

自分で 聞く
みんなで 伝える

考える・表現する

めあてに対して ▶ **まとめをする**

学習を ▶ **ふりかえる**

「わかったこと」 「できたこと」
「がんばったこと」 「これから～」

- 授業者と児童生徒による学習の流れの共有
- 授業者による折に触れた確認による学習の充実

エビデンスに基づく学力向上策 ～ 「学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）※」の作成と活用～

※以下、「ダッシュボード」

<導入の目的>

エビデンスに基づく学力向上に取り組むため、教科学力だけでなく、非認知能力や学習方略等についてクロス分析をした結果をグラフや図表にまとめ、各学校において自校の実態（強みや課題）を把握できるようにした。

<導入の経緯>

<背景>

学力調査について、学校や学級の実態の違いがあり、市全体の平均で語ってもあまり意味がないとの思い

令和4年度

「学校カルテ」の作成・提供

- ・「ダッシュボード」の前身
- ・市教委の自前、1枚紙
- ・小6・中3、全国学調

市教委の負担軽減

より複合的・多角的な分析の必要性

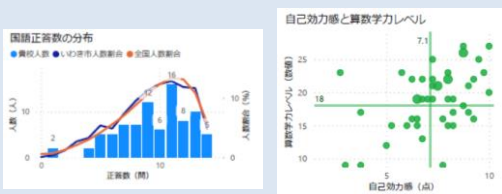
令和5年度～

「学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）」の作成・提供

- ・外部委託
- ・R6：小4～中3へ拡充
- ・全国学調、ふくしま学調、I-SUS

<特徴>

○「全国学力・学習状況調査」だけでなく、「ふくしま学力調査」、本市独自の「いわき市児童生徒理解アンケート（I-SUS）」のデータを加え、教科学力や非認知能力、学習方略等のより多角的な分析結果を得ることができる。



○平均正答率等の情報に加え、分布図や「インフルエンサー（影響を与えるもの）分析」により、学校・学級の強みや課題の背景の理解や改善の糸口となる情報の把握ができる。

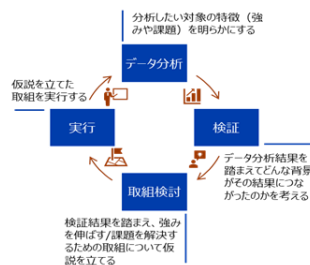


○各学校の各教員で分析データを閲覧することが可能となり、学校の自主的な取組を促進することができる。



<活用>

データ活用サイクル



令和7年度の主な取組（予定）

- 「ダッシュボード」の作成・提供 → 暫定版（9月：小6・中3）、完成版（10月：小4～中3）
- 学力向上アドバイザー訪問 → 「ダッシュボード」を活用した管理職等との面談による指導助言
- ワークショップ研修（対象校：15校）→ 「ダッシュボード」活用に関する基礎的・実践的研修
- 「ダッシュボード」活用研修 → 市総合教育センターの職能研修として実施（各学校1名悉皆）

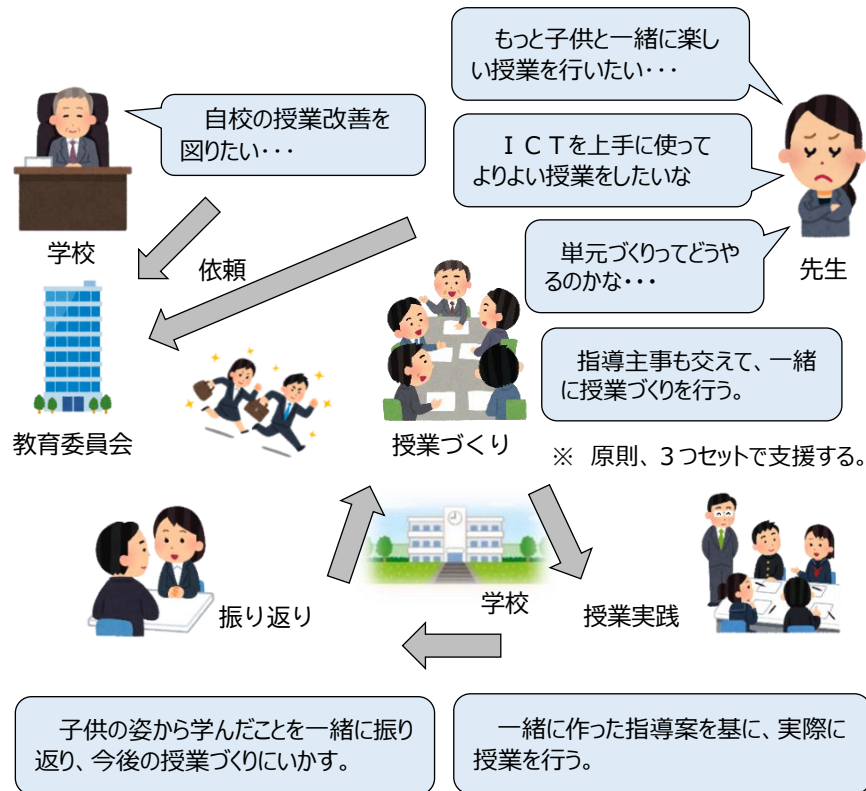


各学校における「データ活用サイクル」の推進による学校運営・学級づくり・授業づくり等の充実

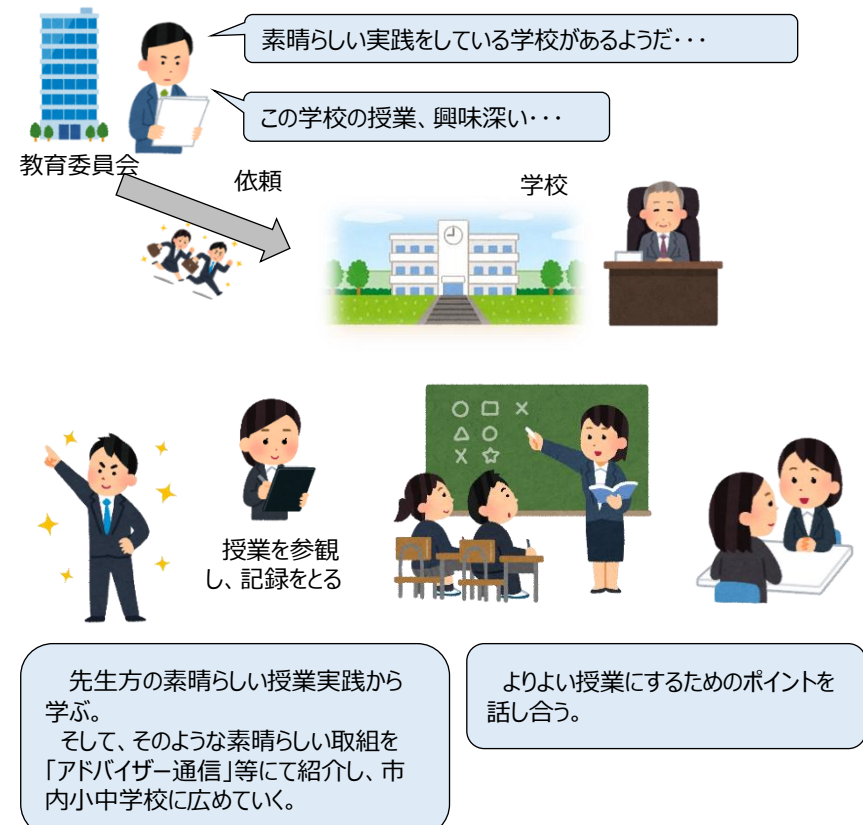
いわきの学びづくり訪問 ～みんなでつくろう、「主体的・対話的で深い学び」の実現された授業～

いわき市教育委員会指導主事等が市内小中学校を対象に「いわきのまなびづくり訪問」を行い、「ＡＢＣプラン」や「ＡＢＣシート」に基づき、児童生徒の資質・能力を確実に育成するための授業づくりを継続的に支援するとともに、効果的な実践事例を発掘・発信することで児童生徒の学力向上を図る。

授業づくり支援訪問



実践事例発掘訪問



【対象教科】 ○国語 ○算数・数学 ○社会 ○理科 ○外国語・英語

※ 授業づくりにおける効果的なＩＣＴの活用についても支援

他機関との連携による研修（講師招聘型）

本市小中学校の学力向上に向け、他機関との連携による研修（講師招聘型研修）を実施することによって教職員の資質向上・指導力向上を図るとともに、学校の主体的な取組を支援する。

- 研修は、学力向上に資する内容とし、学校のニーズに応じて実施する。
- 研修は、講師招聘型研修とする。
- 研修に係る経費（報償費、旅費）については、いわき市教育委員会が負担する。

<概要と留意点>

- 講師招聘先の検討、依頼、申込み等は、学校が行う。
- 予算の都合上、研修の可否を含め、招聘先や人数等について調整する場合がある。
- 講師招聘先は、原則、福島県内又は茨城、宮城などの近県及び東京都とする。
- 研修の時間は、3時間以内（休憩時間を除く）とする。
- 研修の申込みは様式1「研修実施申込書」、研修の報告は様式2「研修実施報告書」による。
 - ・様式1：研修実施予定日の1か月前までに提出
 - * 学校は、提出の1週間前までに、いわき市教育委員会に事前の連絡・相談をする。
 - ・様式2：研修実施日から1週間以内に提出
- 学校は、いわき市教育委員会からの研修実施の決定通知を受け、招聘先への正式な申込みを行う。
- 研修に係る経費（報償費、旅費）については、様式2「研修実施報告書」に基づき、いわき市教育委員会が負担する。
- 申込みの状況により、実施できない場合がある。

